

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

埼臨技 新入会員向け研修会開催される

令和4年7月29日(金)新入会員向け研修会がWeb開催された。

講演1は神山清志会長より「臨床検査技師会とは?～日臨技・埼臨技について～」と題し、技師会の歴史から事業内容、現在の医療業界における臨床検査技師の立ち位置やタスク・シフト/シェアについてなど、臨床検査技師また技師会会員としてモチベーションアップにつながる内容であった。

講演2は越谷市立病院の杉村楓氏より「先輩技師に聞く～検体検査の日当直業務について～」と題し、各検体検査分野での検体受付や前処理の注意点、検査のピットホールやパニック値連絡など、それぞれの重要性を認識できた内容であった。

講演3は自治医科大学附属さいたま医療センターの関森なつみ氏より「先輩技師に聞く～患者様とのコミュニケーション 生理機能検査、採血業務を通じて～」と題し、具体的な患者対応などについて、実際の経験談や実例を交えた解説とアドバイスがあり、コミュニケーションの大切さが再確認できた内容であった。

本講演で得られた情報を、明日からの業務にぜひ活用してほしい。以下に研修会に参加した新入職員を代表して3名の感想文を掲載する。

川口市立医療センター
森藤 あかり

今回、令和4年度埼臨技主催新入会員向け研修会に参加し今後の臨床検査技師としての在り方を考えるきっかけとなった。

神山清志会長の講演にて日臨技や埼臨技の活動を認識し、臨床検査技師という職種を世間に広く知られるためには学術・技術の向上に加え自ら活動に参加していくことが必要と実感した。検体検査の日当直業務の講演では分野の壁をつくらず幅広い知識を習得し深めるためにも、多くの研修会や学会等へ参加していきたいと思う。そして患者様とのコミュニケーションに関する講演では楽しむことの大切さを学んだ。私が患者様と接する機会は主に採血業務となるが、まだ技術が未熟であり、患者様の不安を軽減できず時には厳しいことを言われることもある。自分の手技や不安に気をとられて接遇がおろそかになりがちだが、「痛くなかったよ」と褒めてくれた方や応援してくれる方もおり、信頼関係を築き上げるためにも怖がらず、患者様とのコミュニケーションを積極的に行っていきたいと思う。



さいたま赤十字病院

根岸 茉央

令和4年度埼臨技主催の新入会員向け研修会に参加した。

講演1では、日臨技や埼臨技の活動内容について知ることができた。日々の業務だけでなく、研修会などにも積極的に参加することも臨床検査技師として成長するためには必要であると実感した。また、検査技師として長く活動していく上で技師同士のつながりも大切にしたいと感じた。

講演2では、検体検査についてのお話を聴くことができた。日当直の業務では、担当部門以外の検査項目も担当することになるので、その検査の意義などを理解した上で業務を行なっていきたいと思う。

講演3では、生理機能、採血業務における患者様とのコミュニケーションについてお話を聴くことができた。患者様と接するこれらの部門では、患者様に不安を与えない言葉選びをすることが大切であると再確認できた。普段は検体系の業務についているが、病院内では患者様と接する機会があるので、生理機能や採血業務に限らず心がけたい内容であった。

今回の研修会では検査技師としてのあり方を再認識することができた。今回の研修会で得たことを今後の業務に活かしていきたいと思う。



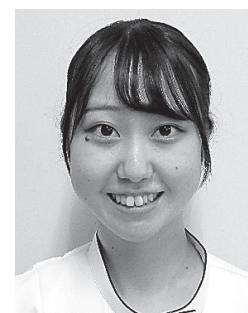
戸田中央総合病院

北川 実穂

令和4年度埼臨技主催の新入会員向け研修会に参加した。

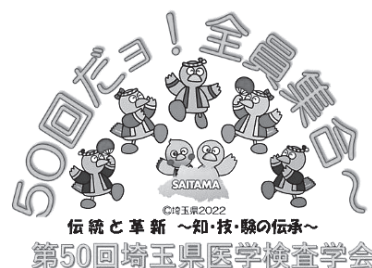
最初に神山清志会長のお話を拝聴し、生涯学習の大切さを学んだ。臨床検査技師は、医療業界の中では認知度が比較的低く、また患者様と接する機会も少ない職種であるが、的確な診断や治療方針の決定のためには正しい検査結果が必要不可欠であり、そうした点から臨床検査技師は重要な役割を担っている。現代社会における医療の進歩は目覚ましく、日々発展している中で、私も臨床検査技師として知識や技術の修得を怠らず、日々広げていきたい。

次に杉村楓氏からは、検体検査時に注意すべきポイントを、関森なつみ氏からは採血・生理機能検査の患者様とのコミュニケーションについて、事例を交えての内容を学んだ。正しい検査結果を得るには正しい手技や患者様の協力が重要であり、そのために臨床検査技師が果すべき役割は重大だと実感するとともに、大学では実践できなかった専門的な知識を学ぶことができた。これからは、勉強会やセミナーに積極的に参加して最新の医学情報を学びつつ、認定資格に挑戦することで日々の仕事に目的と向上心を持って検査に臨んでいきたい。



第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

期 間：2022年12月4日(日)
 会 場：大宮ソニックシティ
 テー マ：伝統と革新 ～知・技・験の伝承～
 サブテーマ：50回だヨ！ 全員集合～



「発表方法・スライド作成について」

第50回埼玉県医学検査学会
 学術部 南雲 涼太

7月29日にて演題・抄録登録は終了となりました。多くの演題登録をいただきまして、あらためて御礼申し上げます。発表担当の皆様におかれましては演題・抄録登録の作業を終えほっと休む間もなく、次のスライド作成の作業に取り掛かる頃かと思います。そこで、今月は演題発表の発表方法とスライド作成（利益相反の開示）についてお知らせいたします。

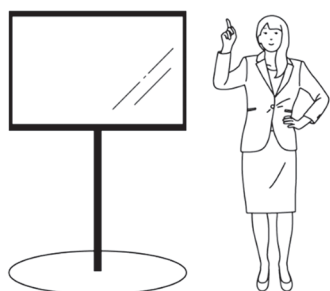
《発表方法について》

発表はパソコンを使用した口演形式です。

一般演題の発表時間は、1演題につき発表6分、質疑応答3分の計9分です。

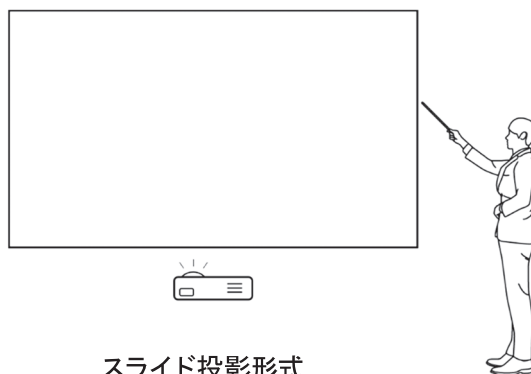
コマーシャル演題は、発表・質疑応答合わせて15分以内です。

スライドの表示形式は「デジタルポスター形式」、「スライド投影形式」の2種類です。発表形式の選択は実行委員会に一任願います。



デジタルポスター形式

55インチモニターにスライドを表示します。
 画像・動画をより鮮明に表示できます。



スライド投影形式

プロジェクターにてスライドを投影します。
 数値、表やグラフなどを見やすく表示できます。

《発表スライドについて》

発表はパソコンを使用した口演形式で行いますので、以下の注意事項にしたがって発表用スライドを作成し、送付してください。尚、送付方法については、10月の埼臨技だよりにてお知らせいたします。

1. 口演スライドの作成方法

1) 学会当日、OSはMicrosoft Windows10、アプリケーションソフトはMicrosoft Power Point2019を使用します。ページ設定は「標準4：3」に設定し作成してください。「標準4：3」の設定は、「デザイン」→「スライドのサイズ」→「標準4：3」から行えます。

Mac OSは使用できませんのでご注意ください。

2) 動画使用の注意

①標準のWindows Media Playerで動作する形式（MPEG1、MPEG2、MPEG4/AVC(H.264)、DivX、

WMV)をご使用ください。なお、符号化や特殊な圧縮(コーデック)をしたものは使用しないでください。また、音声の使用はできません。

解像度は、720×180ピクセル程度、デジタルハイビジョンやフルハイビジョンは避けてください。

②動画再生が不安な場合は、複数の形式を使用してください。

3) 図表作成の注意

①図表を作成する場合は、遠くからでもはっきりみえる簡潔なものにしてください。

②注意してほしい箇所は目立つように工夫してください。

③グラフのX軸・Y軸の項目や単位を忘れないで記入してください。

4) スライドに使用する文字は、特殊なフォントは使用せずMicrosoft Windows10に標準搭載されているフォントのご使用をお奨めします。

《利益相反(COI)の開示について》

利益相反とは、ある行為によって一方の利益になると同時に、他方への不利益になる状態を指します。

1. 埼玉県医学検査学会の発表は、利益相反の開示が義務付けられております。

開示基準その他の詳細については、JAMTのホームページの会員専用サイトにログインし、『利益相反』を開いてご確認ください。

2. 利益相反の自己申告は、発表スライドの1枚目の最下段に下記の申告内容を記載してください。

1) 利益相反無しの場合・・・利益相反の有無：無

※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

2) 利益相反有りの場合・・・利益相反の有無：有

※この演題の発表に関し、開示すべきCOI関係にある企業名

〇〇〇〇株式会社、(株)□□□□

3) 記入例

〇〇〇の検討について △△病院 臨床検査部 埼玉 県一 利益相反の有無：無 ※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません
--

《はじめて学会発表する方へ》

発表用スライドが出来上がったら、読み上げ用の原稿を作成しましょう。そして、声に出して読み返してください。間違えずに読めるようになったら、実際にスライドを使用して職場の先輩や同僚に確認してもらいましょう。パソコンの操作や人前で話すことで、若干時間がずれたりしますので、何回か予演することをお勧めします。努力は必ず報われます。頑張ってください。

今回の学会テーマは「伝統と革新 ～技・知・験の伝承～」です。コロナ禍も三年目へ突入しましたが、今年は記念すべき第50回目の学会となります。皆さんの学会発表が様々な現場での技術・知識・経験に生かせるような素晴らしい作品となることを期待し、実行委員一同、準備を整えてお待ちしております。

「運営部を担当して」

第50回埼玉県医学検査学会
運営部 渡邊 裕樹

第50回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当します埼玉医科大学総合医療センターの渡邊裕樹と申します。

本学会も開催まで残すところ3ヵ月をきりました。コロナ禍の学会開催となり、多くの学会は開催形式や運営など感染対策を講じて開催にいたっています。本学会も例外ではなく、万全の感染対策と運営のもとに開催を予定しています。

第50回という節目の学会であり、新たに55インチのモニターを使用したデジタルポスターによる

発表形式が一部の口頭発表で採用されます。演者と聴衆との距離感が近く活発な意見交換がしやすい環境となっています。

私も各学会に参加していますが、いざ学会運営側になるとわからないことだらけで、いろいろな方々に指導いただきながら運営の一員として携わせていただいています。1つの学会の開催には、話し合いに多くの時間を要し、こんなにも苦勞するのかと痛感していますが、学会が無事に開催できるよう貢献できたらと思います。

ここで事前参加登録のお知らせです。

事前参加登録期間：2022年10月1日～11月20日

事前参加登録を「Peatix」(イベント管理サービス)より行っていただきます。「Peatix」に登録後、参加費の事前支払いとランチョンセミナーの申し込みが可能となりますので、以下の手順にしたがって参加登録を行ってください。

《事前参加登録手順》

事前参加登録および参加費の事前支払いをPeatixよりおこなってください。

①Peatixのダウンロード

- ・スマートフォンの場合：App StoreもしくはGoogle PlayのQRコードよりアプリをダウンロードし、新規登録を行ってください。



- ・PCの場合：<https://peatix.com>もしくはインターネット検索にて「Peatix」と検索し、サイトHPから新規登録を行ってください。



※本学会では当日の参加受付をPeatixより行います。お持ちのスマートフォンからのダウンロードをお勧めします。

②Peatixの新規登録

詳しくは、学会ホームページ
(<http://www.sairingi.com/academy/50ken/index.html>)
をご覧ください。

③イベントURL <https://50samt1204.peatix.com>

「第50回埼玉県医学検査学会」ページへ

④入力フォームより参加者情報を入力

【会員】

氏名・会員選択・会員番号・施設名・参加区分・メールアドレスを入力

【賛助会員】

氏名・会員選択・会員番号(ゼロ6桁を入力)・企業名・参加区分・メールアドレスを入力

学会参加費

- ・埼臨技会員(日臨技会員)：2,000円
- ・賛助会員：2,000円

⑤チケットを選択し、支払い手続きへ



※ランチョンセミナーチケット(無料)は1人1つだけ選択してください。(複数の選択はお控えください)

⑥下記の方法でお支払い



今後も学会LINEや学会ホームページにてお知らせがありますので、引き続きご覧ください。皆様の学会参加をお待ちしております。

研究班研修会報告

テーマ 一般検査と自動化。パート①

主催 一般検査研究班

実施日時：2022年6月16日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講演 1：尿定性分析装置の比較

講師：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 2：尿定性検査の精度管理法

講師：室谷 明子（埼玉医科大学国際医療センター）

参加人数：会員131名 賛助会員1名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己
松本実華 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「一般検査と自動化。パート①」のテーマのもと藤村氏、室谷氏を講師にWebにて開催した。

講演1では藤村氏より、尿定性分析装置の比較について講演があった。尿定性検査の自動化は目視判定において生じる個人差の問題を解決するための背景があり、施設間差（ばらつき）が小さくなることも期待された。正確な測定結果を報告するために、機器の取り扱いについては日々の内部精度管理や状態確認が肝要とのことであった。また、実際の機器検討データが提示され、キャリーオーバー試験、干渉試験（乳び・ヘモグロビンの影響）、相関試験の結果より、各分析装置の比較説明があった。また近年、糖尿病の治療薬としてSGLT2阻害剤を服薬されている患者では、尿中に多量なグルコースが排泄されることが報告されている。そこで、高濃度の尿糖が試験紙に与える影響について説明があった。高尿糖検体においては機器メーカーにより異なる試験紙の厚さや検体分注量から、白血球反応、尿蛋白、尿潜血、ケトン体の結果が偽陰性化することがあるとの内容であった。実際、機器更新による検討の機会は少ないが、どの観点から機器の性能評価や仕様確認をすべきかについて再確認でき、大変参考になった。

講演2では室谷氏より、尿定性検査の精度管理方法について講演があった。改正医療法により検体検査の精度保証の確保が必須となった今日、精度管理責任者の配置と内部精度管理の実施、および標準作業書の常備、従事者への周知、作業日誌・台帳の作成が責務であるとのことであった。臨床検査における品質管理の目的は臨床のニーズを満たすことであり、迅速かつ精度の高い検査結果で付加価値情報のある検査結果を提供することがポイントであり、そのために不可欠なのが精度管理である。また、精度管理は検査における全プロセスにおいて重要であり、検査前プロセスは検体採取や運搬、検査中プロセスは受付・機器保守・管理試料・患者試料管理、検査後プロセスは結果報告と、LISによる前回値チェックやロジックによる結果確認、また必要時に応じて、電子カルテによる疾患、治療方法、投薬情報などが重要であるとの内容であった。自施設での運用事例や手順書の記載方法例とともに各プロセスについて詳しく説明があり、日常業務における各種手順書の見直し方やPDCAサイクルの考え方について大変参考になった。

臨床検査の自動化が日々進歩していく昨今であるが、機器単独で結果の担保を完全に担えることはなく、精度の確保のためには、機器や検体を正確に扱える検査技師の教育や日頃からの業務手順の見直しがとりわけ重要であると再認識した。自動化運用については各施設多様な実際であるが、参加者それぞれの観点で業務の質向上につながる研修会であった。

（文責：柿沼智史）

テーマ 自動血球分析装置の特性 part1 最新トピックも併せて

主催 血液検査研究班

実施日時：2022年7月5日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：血球算定と干渉物質の影響 ～ 全自動総合血液学分析装置Alinity hqの有用性 ～

講師：生田 勇太郎（アボットジャパン合同会社）

講演 2：血液検査におけるピットホールと多項目自動血球分析装置XRシリーズの特性について

講師：館野 真介（シスメックス株式会社 北関東支店）

参加人数：会員82名 賛助会員7名

出席した研究班班員：中山智史 濫川絵美 星聖子 堀内雄太 加藤鉄平 島田崇史 吉澤悟
石田沙妃

研修内容の概要・感想など

両講演ともに自動血球分析装置における基本的な測定原理、検査機器ごとの特性とそれを用いた応用についての講演であった。

普段、何気なく使用している自動血球分析装置はCBC、Diffの数値的な結果だけでなく、その他多くの情報を表示していることを改めて認識した。検査を行う上で干渉物質や検体性状による偽低値、偽高値を把握しておくことは必須であり、どのような工夫をすれば真値を臨床に返すことができるかを知っておく必要がある。また、ヒストグラム、スキッタグラムについて深く知ることで測定値から得られることは多くなり、その後に行う目視での白血球分類、異常細胞の発見にも活かすことができる。

装置の測定原理だけでなく各社の機器特性についてもしっかりと理解しておくことでより正確な結果を手に入れることができるため、自施設の使用機器についても知識、理解を深めていくべきであると感じた。

（文責：加藤鉄平）

テーマ どう考えればいいの？ 精度管理の基礎と解釈

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2022年7月14日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：杉村 楓（越谷市立病院）

参加人数：会員274名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 石川純也 廣瀬良磨 杉村楓
菊池萌衣 福島渉

研修内容の概要・感想など

精度管理の基礎として、的を用いて精密さと正確さの違いや、不確かさの概念とトレーサビリティについての説明があった。続いて、検査の分析・確認だけの「精度管理」、検体採取・搬送から結果報告・検体保存までの「総合的精度管理」、そして総合的精度管理に加え、検査の選択や依頼、結果の解釈までを含める「精度保証」という最近の精度管理の考えを示し、それぞれ具体的にどのようなことが当てはまるのか説明があった。

検査室で1番使用されているであろう \bar{x} -R管理図については、正規分布図に当てはめ、 $\pm 1SD$ は68.3%、 $\pm 2SD$ になると95.4%、 $\pm 3SD$ では99.7%のデータが収まることや、トレンド現象やシフト現象、大きな変動について実際の管理図を用いて説明があり、それぞれ出現する原因についても説明があった。

その他の精度管理手法として、日間のバラつきを管理できる \bar{x} -Rs-R管理図や、 \bar{x} -R管理図と組み合わせることでランダム誤差と系統誤差を検出できるマルチルール管理図、分析の異常や急

激な病態の変化、検体の取り違えを検出できるリアルタイム精度管理などの管理手法についても説明があった。

測定機器に異常がないかだけが精度管理ではなく、おかしなデータが出現したらすべてのプロセスを確認する必要があることを再認識した研修会であった。

今回の研修会をきっかけに、精度管理の考え方をブラッシュアップし、より良い検査データを提供できるように研鑽していただきたい。
(文責：永井謙一)

テーマ HTLV-1感染症について

主催 血清検査研究班

実施日時：2022年7月21日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講 師：福田 雅之助 (H.U.フロンティア株式会社 営業統括本部)

参加人数：会員137名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 富田耕平 岡倉勇太 大坂圭司 飯山恵

研修内容の概要・感想など

今回は、HTLV-1/2 (ヒトT細胞白血病ウイルス1型/2型) について感染状況から検査・診断、治療まで近年のガイドラインに沿った講義内容であった。

感染状況では、日本国内において九州でのキャリア数が多く、関東・中部地域では増加傾向である。この増加傾向は人口の移動によるものが考えられる。また、日本国内のキャリアのほとんどが1型のキャリアである。

HTLV-1/2の感染経路は、母子感染 (垂直感染)、性行為感染 (水平感染)、輸血である。しかし、1986年から全国の血液センターで献血時にHTLV-1抗体のスクリーニング検査が実施されて以降、輸血による感染報告はない。そのため、現在では母子感染・性行為感染が主な感染経路となる。垂直感染では母乳による感染率が25%であるが、授乳の中止により感染率を約3%まで減少できる。

HTLV-1感染者の80%は血液中の感染細胞が少なく、さらにその94%は生涯無症状である。また、HTLV-1感染者の20%は感染細胞が多く、さらにその5%がATL (成人T細胞白血病・リンパ腫) を発症し、0.1%がHAM (HTLV-1関連脊髄疾患) を発症する。感染から各疾患の発症までは、ATLで約60年間、HAMで約40年間である。

妊婦におけるHTLV-1/2感染の診断指針では一次検査 (CLEIA法またはPA法)、確認検査 (WB法またはLIA法) があり、一次検査で陽性・確認検査で判定保留の場合はPCR法による確認を行う。確認検査での判定保留率は10～20%である。各検査フローにより母乳哺育を勧めるか人工乳を勧めるかが分かれるため検査結果の解釈とフローの理解が重要である。また、一次検査が陽性の場合、PCR法の実施や母乳哺育・人工乳のどちらを選択するかは各妊婦の意思や自主性を尊重し、一方的な介入は避ける。詳しくは「HTLV-1感染の診断指針」を参照されたい。

HTLV-1感染の治療は疾患により異なる。ATL/L (成人T細胞白血病/リンパ腫) の治療では一般に抗がん剤が用いられる。数種類の抗がん剤併用療法により30～70%の寛解が得られるが、多くは再発する。再発の場合は造血幹細胞移植の選択を勧める。また、ATLの病態は急性型、リンパ腫型、慢性型、くすぶり型の4病型に分類される。急性型およびリンパ腫型ATLは、aggressive ATLとも呼ばれ、最も予後の悪い造血器悪性腫瘍である。慢性型およびくすぶり型ATLはindolent ATLとも呼ばれ、その大多数が経過中に急性転化し、長期予後は不良である。HAMでは軽症から重症まで個人差が大きく、疾患活動性や重症度に応じて治療内容を選択し、できるだけ重症化を予防する治療方針を立てる必要がある。生命予後は一般的には良好であるが、歩行障害や排尿障害・難治性疼痛などの症状が残る場合が多い。

今回は、HTLV-1について各フローの再確認ができた。自施設でも検査のフローだけでなく関連情報の共有を行い、検査室の技術・知識の向上に繋げたい。

(文責：岡倉勇太)

テーマ **合格者が教える微生物検査の資格試験**

主催 微生物検査研究班

実施日時：2022年7月22日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：二級臨床検査士

講演 演：松崎 奈那子（埼玉医科大学病院）

講演 2：認定臨床微生物検査技師

講師：千葉 明日香（越谷市立病院）

参加人数：会員53名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井芙美 岸井こずゑ 佐々木真一 伊波嵩之
渡辺駿介 大塚聖也

研修内容の概要・感想など

今回は「合格者が教える微生物検査の資格試験」という題で、昨年度各試験に合格した2名の方を講師に迎え講演が行われた。

二級臨床検査士については松崎氏より、受験の流れから試験内容、実際の試験対策まで幅広く説明があった。筆記試験対策ではグラム染色で推定可能な菌種について実際の写真が提示され形態的特徴、性状、どのような材料から分離されるのか、病原性などについて詳しく解説があった。動画試験対策ではガスバーナーの使用法、火炎滅菌の方法、性状確認培地への菌の接種方法、ディスク拡散法の判定方法などについて注意点の解説があった。昨年度よりコロナ禍のため実技試験が動画試験に置き換わっている。動画から誤っている点を見つけ正しい手順を示す必要があることから、正確な手順を把握しておくことが大切だと感じた。寄生虫学では普段目にする機会が少ないため、日本臨床検査同学院主催の寄生虫検査法技術講習会がとても参考になったとのことであった。

認定臨床微生物検査技師については千葉氏より受験までの流れから実際の試験内容などについて説明があった。認定研修施設に勤務していない受験者は指定講習会の受講が必須となっている。以前は試験前日に行われていたこの講習会だが、現在はWebでの開催となっている。2～3か月間、何回でも視聴可能とのことを受験者には嬉しい変更点だと感じた。筆記試験では英文和訳があり普段英語に触れる機会の少ない受験者は英語論文を読む習慣をつけておくといいとアドバイスがあった。実技試験ではグラム染色、分離培地からの菌種推定、主要な病原微生物の同定、薬剤感受性検査について解説があった。薬剤感受性検査では、微量液体希釈法の原理をきちんと理解しているかを問うような問題が出題されており、とても勉強になったとのことであった。認定臨床微生物検査技師の試験内容は、2014年の筆記問題しか公開されていないため非常に興味深く参考になる講演であった。

資格取得を通して技師としての経験値が上がった、視野が広がったというようなお話を講師の2人から聞くことができた。資格取得は自身のやってきたことへの客観的評価であり、仕事へのモチベーションにつながる。本研修会の参加者数が今年度最多であったことから、資格試験への興味・関心の高さをうかがうことができた。

(文責：今井芙美)

前号の訂正のお知らせ

埼臨技だより519号「研究班研修会報告」の記事に以下の間違いがありました。関係者の皆様にはご迷惑をおかけしました。訂正してお詫び申し上げます。

P.5上から9行目 誤) 文責：澁川絵美 → 正) 文責：比嘉絢子

**令和4年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第6回 理事会議事録**

日 時：令和4年8月12日(金) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 長澤 松寄

阿部 網野 佐瀬 三木

伊藤(恵) 神嶋 石井 神戸

小林 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 山口 濱本 松尾 塚原

伊藤(隆) 長岡

(監事) 細谷

欠 席：(理事) 久保田

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和4年7月7日～令和4年8月11日)

7月7日(木) 令和4年度第5回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)、神戸、石井、小林、長岡、久保田、長谷川、遠藤

7月7日(木) 人間総合科学大学講義：神山

7月8日(金) 日臨技執行理事会予備会議：神山

7月8日(金) 青年部委員会：

猪浦、塚原、濱本、神戸

7月9日(土) 日臨技執行理事会：神山

7月14日(木) 令和4年度 第1回埼玉県医師会
臨床検査精度管理委員会：

松岡、長岡、神戸、山口

7月15日(金) 事業部会議：

猪浦、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

7月17日(日) タスクシフト講習会：

猪浦、山口、長澤、松寄、石井、阿部、塚原、神嶋

7月19日(火) 日臨技臨時執行理事会議：神山

7月19日(火) 日本医療科学大学講義：神山

7月21日(木) 第50回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

7月22日(金) 日臨技臨時執行理事会議：神山

7月22日(金) 日臨技支部長連絡会議：神山

7月22日(金) 日臨技理事会事前会議：神山

7月23日(土) 日臨技理事会：神山

7月23日(土) 日臨技理事内部研修会：神山

7月28日(木) さいたま市保健所打ち合わせ(精度管理委員会)：神山

7月29日(金) 埼臨技新人研修会：

神山、塚原、松寄

8月6日(土) 日臨技執行理事会：神山

8月8日(月) 深谷市合同イベント第1回実行委員会：塚原

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 7月26日(火) 埼玉県臨床工学技士会 第13回循環器セミナーについて後援の回答をした。

2 総務部

1) 7月17日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県008)を女子栄養大学で開催した。

(別紙資料1)

2) 令和4年8月21日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県009)は開催人数に満たないため、令和4年9月11日(日)に延期した。会場は同じく女子栄養大学にて開催予定。

3) 令和4年度会員名簿の校正が終了した。今後、CD-ROM作成に入る予定。

4) 8月15日(月) 埼臨技だより519号8月号発行予定。

3 事業部

- 1) わらび健康まつりについて蕨市へ参加の回答をした。
- 2) 深谷市合同イベントについて深谷市へ参加の回答をした。
- 3) 7月8日(金)第1回青年部委員会を開催した。(別紙資料2)
- 4) 7月15日(金)事業部会議を行った。(別紙資料8)
- 5) 7月29日(金)新入会員向け研修会を開催した。(別紙資料3)
- 6) 8月8日(月)深谷市合同イベント第1回実行委員会に参加した。(別紙資料4)

4 学術部

- 1) 生涯教育研修プログラム10・11月分を埼臨技だより8月号に同封予定

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和4年度正会員費34名170,000円、入金金31名31,000円、再入会金3名3,000円、合計204,000円の入金があった。(直接入金1名あり)
- 2) 日臨技より、定時総会議決権行使における回収手数料108,600円(受領率65.28%、2,172件×50円)の入金があった。
- 3) 日臨技より生涯教育推進事業研修会助成金50,000円の入金があった。
- 4) PCの買取料7台分375,650円を支払った。
- 5) 石井印刷に埼臨技会誌Vol.69-No.1印刷代807,840円、埼臨技だより第518号印刷代180,048円、仕分費25,190円、合計1,013,078円を支払った。
- 6) 7月15日、事務員に夏季賞与を支給した。
- 7) Office365更新料20,856円を支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 令和4年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査の試料到着日は9月12日(月)となった。
- 2) 埼玉県医師会臨床検査精度管理調査管理サーバーへの不正アクセス報告(別紙資料5)

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

特になし

11 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 7月21日(木)第10回学会実行委員会を開催した。(別紙資料6)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)

令和4年8月1日現在

会員数 3,454名[令和3年度会員数3,329名]
(新入会員 221名)

賛助会員 67社[令和3年度 76社]

承認された。

- 2) 災害共済委員の追加について

松寄朋子事務局次長の委員の就任をご承認いただきたい。

上記の件について、神山清志会長から発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

- 1) 会員名簿使用状況アンケート実施について(別紙資料7)

上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、アンケート内容を理事会で確認し、Webアンケートはクエスタントで実施することで承認された。また研究班でのクエスタントの利用状況が少ないため、利用促進を働き掛けるか、Webアンケートの使用方法について検討することとした。

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第50回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

暑い日が続き、外出先では迂闊にマスクも外せない大変な日々となっていますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

私が担当している部門の機器が新しくなりました。「壊れたら修理は難しいですよ」とメーカーさんには言われてましたが、今回無事に更新となり一安心です。故障せずに頑張ってくれた古い機器には「ご苦労様でした」と感謝したいと思います。

これまで使っていた機器は10年以上前のものであり、システムを動かすOSはWindows XPで、調べてみると20年以上前の2001年にリリースされたOSであって、今年入職した新人にはXPと言っても何のことやら、まったくピンと来ないようで、苦笑いでスルーされてしまいました。

次回の機器の更新は、次世代の彼らが決めることになると思いますが、今回のOSも含め、新しくバージョンアップした機器の機能についていけるようXP世代の自分も少しでもバージョンアップを目指したいと思う今日この頃です。

(三木 記)

